



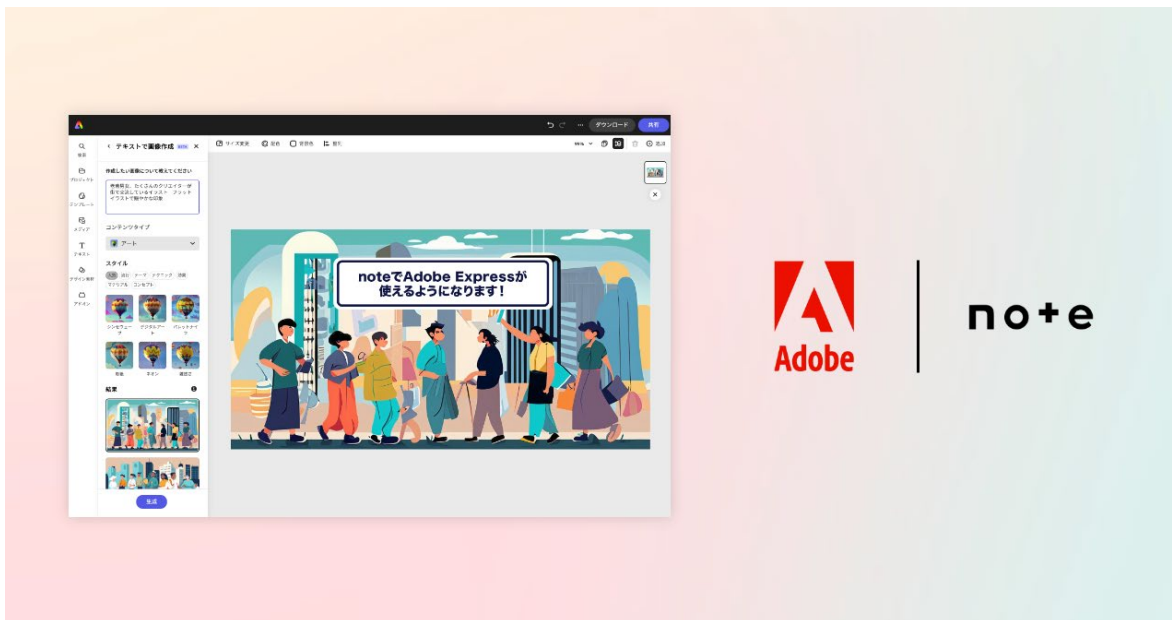
アドビ株式会社
141-0032 品川区大崎 1-112
ゲートシティ大崎イーストタワー

画像生成 AI を搭載した Adobe Express と note が連携

テキスト入力で note の見出し画像の作成が可能に

【2023 年 8 月 29 日】

アドビ株式会社（本社：東京都品川区、社長：クレア ダーレイ、以下 アドビ）は、note 株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役 CEO：加藤 貞顕、以下 note）と連携して、画像生成 AI を搭載したデザインツール Adobe Express で記事の見出し画像をつくる機能の追加に向け、取り組みを開始することを発表します。本機能は note の PC 版で年内のリリースを予定しています。



Adobe Express と note の連携で、だれでも簡単に見出し画像を作成

Adobe Express (<https://www.adobe.com/jp/express/>) と note の記事投稿画面をシームレスにつなげることで、画像生成 AI を活用し記事の見出し画像をつくれるようになります。Adobe



Express は、数ステップの操作でバナー、チラシや動画などあらゆるコンテンツを作成するデザインアプリです。Adobe Express の最新版には、Adobe Firefly（ベータ版）を活用した生成 AI 機能が搭載されており、「テキストから画像生成」では、文章を入力するだけでイメージに合った画像を生成することができます（※）。

見出し画像は、note や外部 SNS のタイムラインでのアイキャッチになり、記事がより多くのひとの目にとまるための重要な要素のひとつです。画像生成 AI を活用することで、自身の記事イメージにぴったりの見出し画像をだれでも簡単に作成できるようになります。

※Adobe Firefly（ベータ版）を搭載した最新版の Adobe Express は、現在デスクトップ版にて提供しています。Adobe Firefly は、Adobe Stock の画像や一般に公開されているライセンスコンテンツ、著作権が失効しているパブリックドメインコンテンツを学習データの収集対象としており、他のクリエイターやブランドの IP（知的財産権）を侵害するようなコンテンツの生成を行わないよう設計されています。

アドビと note が機能連携にいたるまで

アドビと note は、生成 AI を副操縦士やアシスタントのようにひとの創造性を高めるものであり、ひとと競合して代替するようなものではないと考えています。両社が生成 AI に対する共通のスタンスを持ってクリエイターの創作活動を支援していることから、今回の機能連携に向けた取り組みが実現しました。

Adobe Express を活用した見出し画像の作成機能によって、ひとが考えて作業する工程を少しでも減らして、クリエイターが独自の感性や視点を発揮する時間を増やせるようにサポートします。



note 株式会社の執行役員 CDO である宇野 雄氏は今回の連携について次のように述べています。「私たち note は、これまでも生成 AI 領域に力を注いできましたが、主にテキストコンテンツに特化したものでした。今後は画像をはじめとしたマルチメディアにも AI を取り入れることで、多様なクリエイターの創作を後押ししていきます。今回の Adobe Express との連携では、商業利用が可能になるようアドビ独自のデータセットで学習させた素材をもとにした生成 AI により、より一層クリエイターの皆さんに気軽に、安心して創作を楽しんでいただけるようになります。今後も、クリエイターが創作を楽しむためのプラットフォームとして、ひとと AI の架け橋となるよう、一層の努力を重ねて参ります。」

アドビ株式会社の CDO 西山 正一は次のように述べています。「Adobe Express が note と連携し、様々なクリエイターによるコンテンツ作成の支援を行えるようになることを嬉しく思います。この連携によって、note で伝えたい情報を発信する際に、Adobe Express の豊富なテンプレートや生成 AI 機能を使ってイメージ通りの『見出し画像』を直感的かつ短時間で制作できるようになります。アドビは今後も「Creativity for All: すべての人に『つくる力』を」のミッションのもと、あらゆるスキルレベルの人々が創造性を発揮できるよう機能拡充に努めて参ります。」

なお本日、以下の通り 8 月 29 日（火）20 時から開催される、クリエイターエコノミー協会主催の画像生成 AI 活用勉強会 (<https://creator-economy.jp/n/n13cfabe466e9>) のなかで、本機能にまつわる構想をデモ動画を交えながら紹介します。

クリエイターエコノミー協会主催、画像生成 AI 勉強会

AI を活用した創作活動は、物語の設定や背景イラストの生成など、新たな可能性を秘めています。このイベントでは、漫画家のうめさんに AI の具体的な活用例を紹介していただき、創作における効果的な AI の使いこなし方について話し合います。

- 漫画家うめさんによる AI 活用術（画像・テキスト）



- ひとの創造性を拡張させる AI の使い方
- Adobe Firefly、note AI アシスタント(β)とその活用例
- 質疑応答

【開催日時】 8月29日（火）20:00～21:30 予定

【出演者】

うめ・小沢 高広氏、note 株式会社 CXO 深津 貴之氏、アドビ株式会社 CDO 西山 正一

【配信】 [YouTube（クリエイターエコノミー協会）](#) / [Twitter スペース（@note_PR）](#)

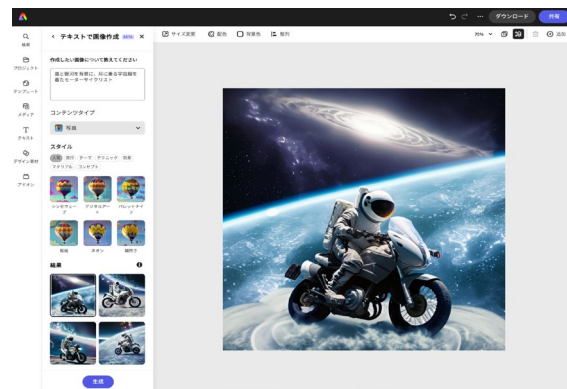
【視聴方法】 上記配信リンクより、どなたでもご覧いただけます。

イベントの詳細は、以下よりご覧ください。

<https://creator-economy.jp/n/n13cfabe466e9>

■ Adobe Express について

Adobe Express は、誰でもかんたんに魅力的な SNS コンテンツ、チラシ、バナーなどを作成できる、無料から使えるデザインツールです。最新バージョンの Adobe Express（デスクトップ版）には生成 AI 機能 Adobe Firefly（ベータ版）が搭載されており、商業利用として安全性を考慮したコンテンツを生成するよう設計されています。



Adobe Express : <https://www.adobe.com/jp/express/>

■ note について

noteはクリエイターが文章や画像、音声、動画を投稿して、ユーザーがそのコンテンツを楽しんで応援できるメディアプラットフォームです。だれもが創作を楽しんで続けられるよう、安心できる雰囲気や、多様性を大切にしています。個人も法人も混ざり合って、好きなものを見つけたり、お



もしろい人に出会えたりするチャンスが広がっています。2014 年 4 月にサービスを開始し、約 3,490 万件の作品が誕生。会員数は 663 万人（2023 年 5 月時点）に達しています。

URL : <https://note.com/>

iOS アプリ : <https://itunes.apple.com/jp/app/note-noto/id906581110>

Android アプリ : <https://play.google.com/store/apps/details?id=mu.note>

■「アドビ」について

アドビは、「世界を動かすデジタル体験を」をミッションとして、3 つのクラウドソリューションで、優れた顧客体験を提供できるよう企業・個人のお客様を支援しています。[Creative Cloud](#) は、写真、デザイン、ビデオ、web、UX などのための 20 以上のデスクトップアプリやモバイルアプリ、サービスを提供しています。[Document Cloud](#) では、デジタル文書の作成、編集、共有、スキャン、署名が簡単にでき、デバイスに関わらず文書のやり取りと共同作業が安全に行えます。[Experience Cloud](#) は、コンテンツ管理、パーソナライゼーション、データ分析、コマースに対し、顧客ロイヤルティおよび企業の長期的な成功を推進する優れた顧客体験の提供を支援しています。これら製品、サービスの多くで、アドビの人工知能（AI）と機械学習のプラットフォームである [Adobe Sensei](#) を活用しています。

アドビ株式会社は米 Adobe Inc.の日本法人です。日本市場においては、人々の創造性を解放するデジタルトランスフォーメーションを推進するため、「心、おどる、デジタル」というビジョンのもと、心にひびく、社会がつながる、幸せなデジタル社会の実現を目指します。

アドビに関する詳細な情報は、web サイト (<https://www.adobe.com/jp/about-adobe.html>) をご覧ください。

© 2023 Adobe. All rights reserved. Adobe and the Adobe logo are either registered trademarks or trademarks of Adobe in the United States and/or other countries. All other trademarks are the property of their respective owners.

###